

小児科領域の血清尿酸値 (第四報) 肥満小児における高尿酸血症

湯 莉 豆本 公余 永井亜矢子
久保田 優

目 的

成人においては肥満やメタボリック症候群 (以下メタボ) と高尿酸血症の関係はよく研究されている。しかし、小児科領域では両者の関係を検討した報告は少ない。今回、学校健診で肥満と診断され精査のため医療機関を受診した小児を対象に高尿酸血症の背景因子やメタボとの関係を解析した。

方 法

対象は2005年から2007年にかけて、尼崎市で血清尿酸値の検査を受けた肥満小児 (肥満度20%超) 1026人 (男児619人, 女児407人)。血清尿酸の基準値として久保田が本学会で2006年に報告したデータを用いた。メタボの診断基準は大関ら (厚労省研究班) が2007年に発表したものを用いた。

結 果

①高尿酸血症は216人 (21.1%) に見られた。②性別では男児の高尿酸血症の人数 (151人; 24.4%) が女児 (65人; 16%) より多かった。③年齢別の割合では、男女を問わず中学生に多い傾向が見られた。④全体で、メタボ該当者は

178人 (17.3%) で、高尿酸血症を呈した者のうち65人 (30%) がメタボに該当した。その割合は、性別、年齢とも大きな差は無かった。⑤メタボ関連の生化学的検査で、すべての項目が正常であった男児は40人 (男児高尿酸血症の26.5%) であり、女児は15人 (女児高尿酸血症の23.1%) であった。高尿酸血症でメタボとされた集団において、異常値を呈した検査項目は、男女とも一番多いは中性脂肪で、次に拡張期血圧、収縮期血圧、HDLコレステロールと血糖値の順であった。

考 案

今回、医療機関を受診した肥満児という限定された対象集団ではあるが、高頻度で高尿酸血症やメタボの存在が明らかになった。小児期の高尿酸血症は成人期の生活習慣病、特に循環器疾患、の危険因子という海外の報告もあり、今後の長期間の経過観察が必要である。

(謝辞: データを供与頂いた「尼崎市子どもの健康づくり委員会」徳田正邦医師 (徳田こどもクリニック) に深謝します。)